

平成26年度企画提案

No	題名	概要	実現状況
1	ハイキングマップの作成及びモバイルの貸し出しについて	市内ハイキングコースのマップを作成し、目標物を掲載することにより、ハイカーの負傷事案や所在地不明事案の出動時の目標物にする。	阪急電鉄及び阪急沿線各市との連携により、観光あるきマップを平成28年4月発行作成し、中山寺の山歩きコースや巡礼道コースなどを掲載した。 廃線敷ルートは平成28年11月に整備が完了し、それに合わせてマップを作成した。
2	宝塚市のキャッチフレーズ・ロゴデザインの制作について	宝塚市の魅力を見つけ、自信と愛着を持って全国に宝塚の良さを発信するため、市民の皆さんと協働して、ロゴ・デザインを製作し、市の印刷物やイベントなどに積極的に活用する。	「ときめく日々がたからもの」のキャッチフレーズとデザイン(H29年度)
3	市内イベントのfacebookでのPRについて	facebookの活用は、現在は実施報告を主にしているため、これから行うイベントや取り組みについての記事も掲載する。	市facebookにおいて実施している。 また令和元年12月からLINEを活用してイベントや災害等についての情報発信を実施している。
4	大学との連携による児童参加型事業について	市内にある宝塚大学や甲子園大学と連携し、児童参加型の事業を行う。	子ども委員会の学生サポーターとして、大阪人間科学大学ほかこれまでに複数の大学の学生に協力いただいている。 ※子ども委員会事業は令和3年度より廃止
5	<最優秀賞> カラーテープによる窓口までの順路の表示について	本庁6階と1階から担当窓口までの順路をカラーテープにより表示し誘導する。また入り口には、案内板を設置する。	他市への視察や研修に参加し、検討を進めてきた。 事業者とも検討を行い、材質、施工方法について協議を行っているが、新庁舎・ひろば建設事業の進捗を見ながら行っている。 また、平成31年4月からは市役所内駐車場が移設され、市庁舎への動線が変わったことや、新庁舎の建築内容も変更されることも視野に、引き続き検討を進めるとともに、工事期間中は手作りの案内板等を活用して庁舎案内に努める。

平成27年度企画提案

No	題名	概要	実現状況
1	<優秀賞> 集まろう！にしたにライダー！	西谷夢プラザを拠点とし、バイクスタンドの設置、サイクリングコースの整備、休憩ポイントの設置、レンタサイクルの実施、西谷産の米を使用したおにぎりの販売等によりライダーを集める。	平成28年度に創設した、バイクスタンド設置補助を活用して、西谷地域に5ヶ所の休憩スポットが開設された。 平成29年度は、北摂里山博物館運営協議会と連携して、北摂の里山を中心としたサイクリングマップを作成し、市役所や西谷夢プラザ等で配布を行った。
2	西谷をサイクリストの聖地に	西谷ふれあい夢プラザ、宝塚サービスエリア等にバイクスタンドを設置する。	上記1と同様
3	西谷花のみち構想	廃線跡沿いにスミレとダリアを植え花のみちをつくる。また一般道路沿いにも、花を植えスマートインターから西谷に降りる道から花のみちを作る。	平成28年度に花の里・西谷活動事業補助を創設。下記の事業に対する補助を実施した。事業の自主性・継続性がみられてきたことを踏まえ、補助制度は平成30年度を最後に終了した。 ※補助実績 ・平成28年度：ごろく山里における植栽及び「西谷花の里・桜まつり」の開催 ・平成29年度：県道沿い敷地におけるダリアの植栽 ・平成30年度：宝塚北スマートIC付近におけるササバザクラの植樹
4	封筒への「階」の記載	各課において使用している封筒に課名だけでなく「階」を記載する。	平成28年6月に会計課宛てに依頼し、デザインの変更を行った。
5	<市長特別賞> 市役所食堂で学校給食を提供	市役所で給食を提供することにより、マスコミに取り上げられ、市内及び全国から興味を持った方が集まり、職員の意識も対外的になりおもてなし力アップにつながる。	平成31年3月の毎週水曜日に、クックパッドに掲載中の本市学校給食レシピを参考に「汁物」や「副菜」を日替わりランチで提供した。
6	<市長特別賞> 宝塚市職員の事務事業等の応援に関する規程の作成	宝塚市職員の事務事業等の応援に関する規程(案)を作成する。	庁内的に、運用上その仕組みが確立しており、その必要性が認められないため、規定の策定は行わないが、今後も柔軟な組織の管理の取組において対応していく。
7	新名神高速道路開通前の自転車レースの開催	各地で行われている開通前の高速道路を自転車等で走るといったイベントを新名神高速道路の開通に合わせて行う。	新名神高速道路建設現場での事故に伴い、高槻～川西が先行して部分開通したことにより、開通区間が自転車レースを行うのに十分な距離をとれないことから、提案事業の実施には至らなかった。 代替として全線開通日(平成30年3月18日)に、高速道路本線をウォーキングするイベントを開催し、サービスエリア、スマートインターチェンジの開通をPRした。
8	挨拶強化月間の実施	年に一度、挨拶強化月間を設け、市役所全体で取り組む。	挨拶強化月間は設定しなかったが、総括課長会議で挨拶の励行について周知を図り、各課で取組を行った。

平成28年度企画提案

No	題名	概要	実現状況
1	<市長特別賞> すみれ墓苑の売り方について	高齢者の利用の多い部門においてセミナーを実施するなど、部・課をまたいだPR活動や公園として整備することにより子供連れが来やすい場所として整備する。	平成29年度と30年度に、市民を対象とした終活セミナーを実施し、その講義テーマのひとつとしてすみれ墓苑をPR。毎年現地での説明会も行っている。 令和2年度は11月14日に終活セミナーを行い、その後現地での見学ツアーを実施した。終活セミナーの参加者は35名、見学ツアーの参加者は12人であった。 令和4年度は10月2日に終活セミナーを行い、令和2年度同様、セミナー後に現地見学を実施した。セミナーへは44名、現地見学へは10名が参加した。
2	ご当地婚姻届で、新婚夫婦を宝塚へ	宝塚市のご当地婚姻届を作成し、この婚姻届を提出し、さらに市内に住まれる新婚夫婦に対してお祝いのプレゼントを贈る。	平成29年11月1日より配布開始。記念撮影コーナー設置済。婚姻届については前年度の実績を踏まえて印刷発注を行っている。
3	<優秀賞> ソリューションフォーカス(解決志向)で職場に笑顔と成果を増やす!	部内の有志で勉強会を作り、ソリューションフォーカスというコミュニケーションの技法を学び人間関係をよくし、職場の笑顔と成果を増やすために取り組む。	職場研修支援制度で既に各課内での研修に取り入れられる環境を築いているが、さらなる活用を図っていく。

平成29年度企画提案

No	題名	概要	実現状況
1	<最優秀賞> イトインスペース付きの カフェ兼アンテナショップ 「Fluer Coffret」の設立	西谷地方にアンテナショップとイトインスペースを併設した飲食施設を立ち上げ外貨獲得を狙う。	「宝塚市市街化調整区域における開発行為及び建築物の新築等に関する条例」が平成30年10月に施行され、「たからづか北部地域土地利用計画」は平成30年9月に正案となった。また「宝塚市北部地域振興に資する施設の建築等に関する要綱」が平成30年10月に施行され、農家レストラン等の設置要件について整理された。令和元年には切畑地区に農家レストランが1店舗開設された。
2	<優秀賞> フロア案内表示	各課ごとに番号をふり(例:総務課→3-1)その番号で案内表示を作成することによって、各課が何階にあり、その方向がわかるようにする。	本庁舎の中では、庁舎の東棟と西棟の結節点となる1階と2階のエレベーター前付近が迷いやすいと認識しており、その場所を中心に手作りで、執務室の番号表示に対応した案内表示を作成し、改善を図った。 提案のような番号表示を行うことについて検討したが、本庁舎で用いているG階という階数表示そのものがわかりにくいと考えており、現時点では、抜本的な改善とならない。一方、現在進められている新庁舎の計画でもG階という表示は使用されず、また、新庁舎の竣工時には来庁者駐車場から本庁舎への動線も大きく変わることが想定される。 そのため、新庁舎の竣工に合わせて、本庁舎の階数表示、各窓口への案内方法を見直す必要があると考えており、今後、新庁舎建設事業の進捗状況を見ながら、本・新庁舎全体を考えたサイン計画の作成をコンサル業務委託することなどを検討したいと考えている。
3	<優秀賞> 部付職員を配置する	各部において部付の係長又は一般職員を配置し、部内で柔軟に従事することを可能にする。	現状でも既に大きなイベント等を実施する際等には、部局を越えた応援体制を築けている。部内応援のための部付職員の必要性については今後とも検討していく必要がある。
4	<優秀賞> 職員相互応援体制の構築	業務の繁忙期やイベント開催時、休業等による職員の不足時に、短期間の部局を越えた職員同士の派遣を行うことで業務の効率化及びイベント等のスムーズな実施を可能にする。	上記提案3と同様、既に部局を越えた応援体制を築けている。
5	<優秀賞> 提案募集型委託事業の実施	市が行っている事務事業の内容を公表し、幅広い団体から提案を受け、サービス向上や費用削減が認められるものについて、契約を締結し業務を委託する。	市民サービスを向上させ、行政の効率化や新たな公共サービスの担い手育成による新しい公共の領域拡大を図るため、市の事務事業を対象に市民団体や民間事業者などから提案を募る提案型事業委託の仕組みの構築に向けた取り組みを進めている。
6	<市長特別賞> 毎月11日は、ほめほめデー	「ほめほめデー」を職場や家庭に広めていくことで職場環境を向上させる。	ほめほめデーの取組が5年目となり、公立の就学前施設においては園発行の行事予定に掲載するなど家庭への啓発も行い「ほめほめデー」が身近なものとなり、定着した。また、小中特別支援学校でも「毎月11日はほめほめデー」のポスター掲示や、学校だよりで知らせていただくなど少しずつ、市内全体に「ほめほめデー」や「ほめる・認める」ことの大切さを伝えることができていく。 教育施設だけでなく、職場においても、教育委員会では毎月11日は職朝で周知し、より意識を高めるようにしており、職場において互いに認め合えることは仕事をするうえでの人間関係を円滑にすることに結び付くことを共通理解し、機会を見付け職員へのさらなる周知を図る。

平成30年度企画提案

No	題名	概要	実現状況
1	<最優秀賞> 学校備品シェアリングシステム	各市立小中学校の保有備品(教材)を他校が円滑に貸借(共同利用)できる仕組みをつくる。	学校の保有備品について、R2年度にデータ化が完了し、R3年度末に新財務会計システムへ移行した。これにより、各校において、それぞれの備品保有状況が財務会計システム内で検索・確認できるようになったため、提案内容を満たすのものと判断する。 今後、従来から庁内掲示板等の利用により実施されている学校園間の備品の貸借について、財務会計システムを活用し更なる促進へとつながるよう、適切な周知を行っていく。
2	<優秀賞> 庁内物品管理システムの活用	庁内で共有の物品管理システムを構築し、物品所持者は物品管理(在庫確認・整備の有無・スペース管理)をシステム内で行う。またシステムを使って物品の貸し出しも行えるようにする。	パソコン、プロジェクタや議事録作成支援機器等について既に実施しており、その他の物品も、要望があれば対応可能である。(情報政策課、総務課) 令和3年10月より長机や立て看板、ベルトパーテーションなど、庁舎内で使用する物品についてシステム上の予約を開始した。令和4年7月に庁内システムが更新されたことに合わせて、マニュアルを作成し、予約方法についてもシステムで確認することを可能にした。(管財課)
3	<市長特別賞> 宝塚市内スポットへのAR型観光チラシの設置案	宝塚市内スポットへのAR型観光チラシを設置することで、観光に手話通訳を必要とする聴覚障害者にも楽しんでもらう。	AR型観光チラシの設置については実現に至っていないが、代替として市の施策、イベント等を動画で紹介する「知ってよ!宝塚」では、聴覚障害者向けに手話によるナレーションを取り入れている。

令和元年度企画提案

No	題名	概要	実現状況
1	<p><最優秀賞> パパママ安心☆キッズスペース</p>	<p>窓口サービス課の待合所にキッズスペースを設け、子ども達が手持ち無沙汰になる状態を解消する。</p>	<p>市役所1階窓口サービス課で各種届出を行う保護者の目が届くよう、窓口の中央にキッズスペースを設置した。(令和2年1月より設置) 広さ約2.7平方メートルのクッション性のマットを敷き、その横に絵本やおもちゃ、ぬいぐるみ等を備えた本棚、利用者要望をふまえたフェンスを配置している。衛生面から、清掃用ティッシュ、消毒用アルコールも常備しており、業務終了後、除菌スプレーで消毒している。</p>
2	<p><優秀賞> 消防職員による校内防災放送プロジェクト</p>	<p>小学校の昼休みに放送される校内放送を利用し、消防職員が防災に限らず、現場経験などを校内放送で伝える。</p>	<p>令和2年9月18日に第一小学校にて各教室に設置されているテレビを利用して校内放送を実施し、消防職員の災害における経験を伝えた。 令和4年1月31日に第一小学校4年生を対象にして、AEDの取扱い方法及びキッズ防災検定クイズを校内放送にて実施した。 今後は、毎年実施される第一小学校区まちづくり協議会主催の児童防災の際に、校内放送を活用していく予定としている。</p>
3	<p><優秀賞> 火葬予約システムの構築</p>	<p>火葬場の予約をシステム化によって一元管理することで予約受付業務の時短化、ミスを防止する。</p>	<p>火葬場管理システムについては、現在他市へ導入実績や仕様の調査や、ベンダーからの資料請求を行い、費用対効果検証や予約業務効率化のシミュレーションを行っている 今後は分析結果について部内協議を行い、導入する方針であれば、R5予算要求に計上する。 火葬場のLGWAN環境についてはR3年度中に整備済みである。 今後も継続して実施計画として要求をする。他市状況や費用対効果の検証を随時行っていく。</p>
4	<p><市長特別賞> ウィルキンソン炭酸を飲んで、ヒト・モノ・カネを集めよう</p>	<p>ウィルキンソン炭酸を活用して、特産品を作り、宝塚市の観光業活性化と歳入増を目指す。</p>	<p>宝塚発祥の「ウィルキンソン タンサン」を貴重な資源のひとつと捉え、オリジナルラッピングを施した自動販売機の設置や、歴史を紹介した看板を設置しPRしている。また、ウィルキンソンを使った「宝塚ハイボール」を開発し、宝塚の新たな特産品として浸透を図っているほか、令和元年度には、市国際観光協会からの推薦により、ウィルキンソン タンサンが「宝塚ブランド『モノ・コト・宝塚』」に新たに選定された。</p>

令和2年度企画提案

No	題名	概要	実現状況
1	＜最優秀賞＞ KDBシステムを用いた要介護認定要因疾病の分析結果による介護予防活動の提案	国保データベース(KDB)システムの医療機関受診状況のデータを用い、要介護認定の要因となる疾病の分析し、対策を提案する。	令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大のため、自立支援型地域ケア会議の開催が現時点で2回となっており、根拠データとしての活用はできていない。国保連合会より、活用事例の提供や研修会が実施されているため、参考にしながら今後KDBシステムおよびKDB補完システムを活用していきたい。また、地域包括ケア推進協議会等でEBPMのベースとなるデータを提供できるよう、関係課と調整していく。(介護保険課) KDBデータの分析結果に基づいた効果的な健康教育や保健指導について検討していく。(健康推進課)
2	＜優秀賞＞ 『学生たからのまちづくり隊』の発足！第一弾 地域活動発信プロジェクト	現在不足している地域活動の担い手、さらに未来の地域活動の担い手として、宝塚市・地域活動に興味や愛着を持つ若い世代の創出のために、学生が市や地域活動に関わるきっかけをつくる。	地域活動の担い手づくりについての検討を進めていく中で、学生が地域活動に関わる方法等についても、実施内容の検討及び調整を進める。
3	＜市長特別賞＞ 医療的ケア児のための庁内連携	切れ目ない支援を目指す子ども家庭総合支援拠点(令和4年設置予定)に、新たに医療的ケア児支援の中核機関を設置し、より強化された庁内連携のもと、対象者に情報提供するなどして継続的に支援を行う。	現時点では、子ども家庭総合支援拠点は医療的ケア児の支援に係る相談先の一つとして想定しているが、継続的な支援や中核機関の設置までは検討していない。 なお、医療的ケア児の個別ケース会議の提案を行い、個別ケースから当市の支援システムや連携の課題を明確にしたいと考えている。具体的な事例について開催を予定しており、近々関係課、支援機関を召集する。
4	＜優秀賞＞ 窓口サービス課スマート未来構想	市民の利便性を向上できるスマートな窓口の実現に向けて、①受付ガイド、②データ分析による窓口混雑予測、③申請書印字システム及び④レジのキャッシュレス化を取り入れる。	旧態依然の窓口サービスのかたちから脱却し、市民のニーズに寄り添った窓口サービスの実現に向けて、事業を進めている。 ①「転入」「転居」「転出」「結婚」「出生」「離婚」「死亡」「氏名変更」の8項目について、手続きガイドを導入している。 ②データ分析を使った窓口混雑予測については、予測結果の正確性が担保できず、実装には至らなかった。その後、番号発券機と連動したリアルタイムの窓口の状況が確認できる「窓口混雑状況配信」システムを令和4年3月に導入した。これは、コロナウイルス感染拡大防止の観点から窓口の混雑緩和を図ることを目的に導入したものであり、ウェブサイト上で各窓口のリアルタイムの待ち人数や呼出番号などを確認することができるものである。 ③申請書印字システムについては、令和3年11月より本格導入している。届出データと住基システムの連携やペーパーレスによる届出については、転入転出ワンストップサービスやシステム標準化等の法改正が続くため、新たな届出形式に合わせたものを、検討していく。 ④令和3年11月より、セミセルフレジを導入し、キャッシュレス決済については、令和3年12月より開始している。
5	＜優秀賞＞ 人件費の見える化で事業の選択と集中、業務改善を！	人件費を事業ごとあるいは費目ごとに割り振ることで事業の選択と集中を促進し、また、職員自らの事業にどのくらいの人件費を使ったかを日々管理することで、職員の人件費に対する意識を向上させ、業務改善につなげる。	令和3年5月に関係者に協力いただき、業務を実際の事務レベルまで分けた上で、人件費と連動する業務時間を見積もり、業務量の調査を試行的に実施した。
6	＜市長特別賞＞ 宝塚市の学校園で働く、看護師の応援体制の構築	学校園等で勤務している看護師同士の連携や相談・応援体制を築くことで、看護師の負担軽減や医療的ケアが必要な子どもが安心できる環境づくりを行う。	教育部局と福祉部局間での看護師の異動があり、それぞれの経験を活かしながら業務に従事しています。 医療的ケア児を考えるネットワークについては、障碍福祉課、教育委員会と引き続き協議の上、検討しています。(子ども発達支援センター) 令和4年度は学校教育課の看護師が2名の体制になったが1名の雇用が決まらず1名でケアを行っている。市内小中学校の児童生徒3名の対応でそのうちの2名は自立でき始めている関係もあり、現在1名で対応している。応援に行くことがなかなかできない状況にあるが夏季休業中は養護学校の看護師とともに研修を行ってスキルの上に向けた取組を行うことができた。(学校教育課) 看護師の入れかわりがあり指導に看護師の手が割かれるため、応援の行き来をすることはできていない。情報交換や連携についての会議は継続して行っており、今後は本校看護師が地域の学校の医療的ケアを学ぶ機会も設定できればと考える。また外部機関における研修会には合同で参加し学びの多いものとなったようである。(養護学校)

令和3年度企画提案

No	題名	概要	実現状況
1	〈最優秀賞〉 広報集約サイトの作成 一元化された魅力発信の 有用性について	<p>行政・民間問わず市内で開催されるイベントを集約したサイトを作成することで、事業者の認知拡大及び消費者の情報収集にかかるコストを低減させるものです。</p> <p>これは、市が集約ページの運営を担い、各事業者が各自でイベント情報を掲載・更新することで、幅広いジャンルを網羅したサイトの実現を図るというものです。</p> <p>これにより、市は更新にかかる人的・時間的コストを抑えたまま充実した情報サイトを作成でき、事業者においては認知拡大や信頼度、プラットフォームの維持にかかるコストを最小限に抑え、純粋な宣伝のみに集中できます。</p> <p>また、夏祭りなど地元密着型のイベントや店舗限定の小規模なフェアなど、宣伝対象となる層が特に狭かった企画においても、注目度の高いイベントと並列して明記することで市の魅力の一つとして取りこぼすことなく宣伝でき、新たな魅力の発信にも繋がります。</p>	<p>市主催・共催イベント及び民間のイベントを市が後援する場合は、ホームページ上の「イベント情報」ページでまとめて確認することができる。</p>
2	〈優秀賞〉 株式会社セブン-イレブ ン・ジャパンとの包括連携 協定による健康情報まと めページ 「ちよいす健活 TAKARAZUKA」のPR	<p>「ちよいす健活TAKARAZUKA」＝「自分で選ぶ健康活動」</p> <p>ホームページにおいて、市民のみなさんが日々の生活の中で、自分自身が少しの工夫や勇気をもって健康づくりにつながる活動(健康活動＝健活)を選んでもらいたいとの思いを込めた運動や食事、健診情報等の健康情報をまとめたページを令和3年3月に開設しました。</p> <p>今回、「ちよいす健活」を特に健康問題が顕在化しやすい40～50代の働き盛り世代に見てもらうために、その世代の利用者数が多いコンビニエンスストアを展開する株式会社セブン-イレブン・ジャパンとの包括連携協定により、市内19か所の店舗において、野菜惣菜売場に「野菜DEちよいす健活」といったPR媒体を配置することを企画提案します。これを実施することにより、PR媒体の2次元コードからスマホによって「ちよいす健活」の健康情報を受け取ってもらうことにより、働き盛り世代の健康づくりの推進が期待されます。</p>	<p>令和4年2月より約1か月間、市内セブンイレブン加盟店舗(19か所)へ「カット野菜DEちよいす健活」と題したPOPの設置を依頼した。市HPアクセス件数は1月が133件、2月が196件、3月が273件と設置による効果が見られた。</p>
3	〈優秀賞〉 規定外接種を防ぐための チェックリストポスター	<p>子どもの定期予防接種は10種類を超えており、ワクチンによっては複数回接種します。</p> <p>しかし、定期予防接種は、規定の接種間隔や接種の期限を誤ると「規定外接種」になり、無料であったものが有料に、健康被害が発生した場合の補償が十分でないなどの事態が起こることがあります。</p> <p>定期予防接種は医療機関での個別接種が原則とされており、間違い防止には医療機関との協力が不可欠です。</p> <p>これまでの規定外接種となった多くの間違いに注目し、ポスタータイプのチェックリストを作成して、医療機関に配布し、規定外接種の防止対策とします。</p>	<p>「宝塚市予防接種実施検討会」にて検討予定であったが、令和4年10月時点で実行には至っていない。</p> <p>今後の検討会に議題として提案し、承認後は間違い件数の多い医療機関に対して配布する予定。</p>
4	〈市長特別賞〉 民間事業者と連携した若 者就労支援～就職後のミ スマッチをなくすために～	<p>若者の離職や事業所とのミスマッチを防ぐために、民間事業者等と連携して自身のライフプランを考える機会や、職場体験ができる仕組みをつくることを提案します。</p> <p>(1)民間企業(例:保険会社)と連携し、高校の授業の一環としてライフプラン(20年後)を作成することを授業の一環で行う。</p> <p>(2)若者ごと相談広場の支援メニューとして、職場体験を行う。</p> <p>例えば、市とNPO法人とが連携し、職場体験の受け入れ先の開拓を行うことで、実際に応募を検討している相談者がいれば、短期間その仕事を体験することができることにより、求職者と事業者のミスマッチが軽減されることが期待できます。</p>	<p>若者就労支援事業を委託により実施し、その中で職場体験やライフプランの講座を行った。また、就職氷河期世代リモート型就労支援事業でSNSアプリのLINEを活用し就職支援ツール(通称:ヅカキャリア)を運用した。「ヅカキャリア」では就職に関する相談や、自身の持つ個性や価値観を重視した職業紹介や企業とのマッチングを実施している。</p>

令和4年度企画提案

No	題名	概要	実現状況
1	<p>〈最優秀賞〉 色のユニバーサルデザインを取り入れよう！</p>	<p>色のユニバーサルデザインを取り入れて、色弱者の方々にもわかりやすい資料を作れるようガイドラインを作成する。</p>	<p>市ホームページや広報誌など市民の方の目に触れる情報発信媒体については、色の使い方には一定の配慮をしている。また、広報誌の文字のフォントについては、目が不自由な人や高齢者などが読みやすいとされる「UDフォント」を採用している。</p>
2	<p>〈優秀賞〉 グランピングで進める地方創生～豊かな西谷地区の自然とともに住み続けられるまちづくりを～</p>	<p>西谷地区の豊かな自然環境を活かすことができ、若者中心に市場拡大を続けているグランピング業界。そのグランピングを西谷地区に誘致することで、経済の活性化・雇用創出を図ろうとする提案。</p>	<p>宝塚自然の家では、指定管理者がテント泊事業を令和5年7月、10月に実施した。参加者は、豊かな自然環境の中、焚火、テント泊を楽しんだ。7月に実施した際は、天体観測も行った。今後も定期的に開催し、市街では体験できないような、自然環境を生かしたキャンプ体験の推進を実施していく。</p>
3	<p>〈優秀賞〉 ゆるスポ×宝塚を起点に今日よりちょっと広い世界に～世界は1度に変えられないから、1度ずつ変えていこう～</p>	<p>宝塚市独自のゆるスポーツの作成・イベントの開催により、市民の健康促進・マイノリティの居場所づくり・多様性の理解に関わるSDGsの課題の解決を目指す。</p>	<p>「ニュースポーツ」の物品借用を通して誰もが気軽に楽しむことができるスポーツを提供している。</p>

令和5年度企画提案

No	題名	概要	実現状況
1	〈最優秀賞〉 庁内照会・通知を見直そう	庁内照会および回答における業務を効率化することで、全庁的に本来の市民サービスの時間を拡充することを目指す。	令和6年度に更新予定
2	〈優秀賞〉 外国籍の方への過剰な手続きを見直そう～平等のための「引き算」～	外国籍児童生徒の就学申請手続きを見直す。	令和6年度に更新予定
3	〈市長特別賞〉 資料作成時に「フィードフォワード」を取り入れよう!	資料作成時に進捗20%の段階で、上司や関係者に意見を求めることで、差し戻しを大幅に減らし、心理的安全性も向上させる「フィードフォワード」という手法。このアプローチ手法を、業務の中に積極的に取り入れることを提案する。	令和6年度に更新予定